

## (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり

### ア エコを通じたふるさとづくり

エコ活動を通して、福岡町地域の歴史、産業、食文化等を学び、地域への関心や理解、郷土意識を涵養する。

- ① エコを通じて福岡を知る・愛する・まちを創る（学社連携型の生涯学習の場づくり）
- ② 福岡エコ製品への回帰（エコを視点とした伝統産業・特産品の再評価・再利用）
- ③ 小中学校でのリサイクル活動（リサイクルを通じた環境教育）

### イ エコを活用した地域活性化

エコの将来性、ビジネス性等に着目し、エコを地域の活性化に応用・活用していく。

- ① 福岡版エコツーリズムの実践（エコ活動ができる団体の組織化）
- ② エコ発想の地域グルメの開発・提供（地産地消型の新たな食文化の開発）
- ③ 生活視点からのエコAPPづくり（PCやスマートフォン向けのエコアプリ開発）
- ④ エコをテーマとした写真のまちづくり（ミュゼふくおかカメラ館との連携事業）
- ⑤ 旧北陸街道の景観保全（エコをテーマとした旧北陸街道の景観保全と活用）
- ⑥ エコまちアカデミーの開講（エコに係る地域リーダー育成とCB・SBの起業支援）

### ウ エコが体感できる地域協働型のモデル地区づくり

福岡駅を中心とした福岡中央地区においては、エコモデル地区として、スマートタウンづくりに併せ、北陸街道の歴史的な町並みや文化を活かしたまちづくりや、殿様清水などの美しい水を活かしたまちづくりを推進する。

- ① 福岡環境ルールブックの発行（地域版環境ルールの創設）
- ② 市民の手づくり蓑川公園ビオトープ（菅・錦鯉など地域生物を使った環境づくり）
- ③ 安心・安全・快適な福岡エコロード（エコの観点による新時代の道路整備）
- ④ エコモデル地区の形成と体験モデル施設の開設（駅舎や新たな拠点“地域交流センター”活用）

|                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり | ア) エコを通じたふるさとづくり |
|---------------------------|------------------|

取組イメージ ①  
**エコを通じて福岡を知る・愛する・まちを創る（学社連携型の生涯学習の場づくり）**

**【概要】**

- 福岡町地域は、旧 6 町村時代から福岡町時代を経て、独自の歴史・文化・産業を育んできた。合併後の新高岡市を活性化する観点からも、福岡町地域が独自の地域性や個性を活かしたまちづくりを進めていくことが重要となっている。
- このためには、住民が地域の歴史・文化・産業などを知り、郷土への愛着を高めていくことが重要である。しかし、生活様式や産業構造の変化、少子高齢化の進展により、福岡町地域を代表する産業・特産品である菅笠、養鯉等の需用が低迷し、また住民の日常生活からも程遠い存在となりつつある。
- 地域の歴史・文化・産業は、自然環境や住民のライフスタイルと密接な関係があり、エコを学ぶことにより、地域の歴史・文化・産業の特性や重要性を再認識し、継承へとつながる。
- 近年、より地域づくりを指向した「ご当地検定」、「エコツーリズム」、「エコミュージアム」など、「地域学」を方法論とする取組も活発になっており、多彩な形で地域学が広がりつつある。
- また、地域学は、地域住民、大学、企業、NPOそして行政のもとで、多くは市民大学などの生涯学習事業として、また、大学の地域貢献事業、地域の観光や産業の活性化のための人材育成としてなど、様々な形態で取り組まれている。
- 福岡町地域においても、エコの視点から地域の歴史・伝統・文化、産業等を学ぶ“地域学”は、身近な生活を取り巻く自然環境や町並み、生活の文化やルールを守るきっかけを子どもや若者等に提供する。
- 小学校、中学校等のエコ教育と地域社会が連携し、エコを通じた“地域学”を学べる生涯学習講座の開設などが考えられる。

**【参考事例・データ等】**

**地域学により地域への愛着や活性化へ**

- みえ熊野学研究会は、三重県東紀州地域（紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町）の歴史、文化、自然、民俗などの地域学を調査研究し、地域資産の再発見と調査研究を展開。
- 三重県の東紀州地域活性化のための官民協働の地域学シンクタンクとして、広範な視点から、歴史軸・地理軸の双方向から熊野を研究して地域資産の発見につとめ、地域内外の研究者、専門家、アマチュアをネットワーク化。

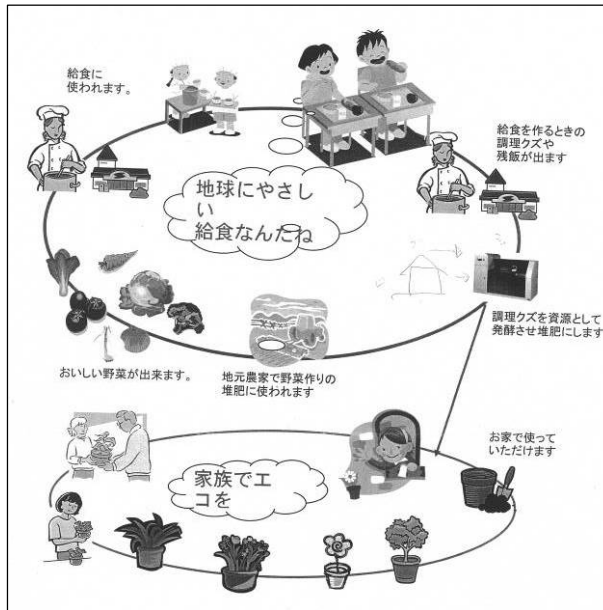
| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり  | ア) エコを通じたふるさとづくり |
|--|------------------|
| <p>取組イメージ ②<br/> <b>福岡エコ製品への回帰（エコを視点とした伝統産業・特産品の再評価・再利用）</b></p>   |                  |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡町地域の特産品として、菅製品（菅笠）、鯉（錦鯉・食用鯉）は全国的に知名度の高いものの、地元住民の需要は減少傾向にある。</li> <li>○ 福岡町地域の自然風土や歴史、原材料等を背景に産み出されてきた地元特産品を福岡エコ製品として再評価・再利用することが重要である。</li> <li>○ 地域の生活用品、観光資源化を検討し、まずは地元での消費の増大を目指し、地域特産品を地元で愛用し、産品化していく取り組みが必要である。</li> <li>○ 菅製品の活用としては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>①越中福岡の菅笠製作技術の技に学ぶ（小・中学生での製作体験・菅の栽培・菅笠音頭の復活、後継者づくりのきっかけとして体験教室や富山大学芸術文化学部と住民と関係者が連携した菅笠製作技術保存ボランティアの育成）</li> <li>②新たな菅製品の商品化（商品化プロジェクトチーム等の設置、エコ関連商品の開発〔日よけシート、カーテン、乗用車のウィンドーグッズ等〕、高齢者等の安否確認用の表示アイテムとして玄関先・軒先等の設置）</li> </ul> </li> <li>○ 鯉の活用策としては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>①鯉を食材とした活用（鯉料理開発〔後掲「エコ発想の地域グルメの開発・提供」参照〕、鯉の加工食品・健康食品開発・販売等）</li> <li>②鯉をテーマにしたまちづくり（鯉のキャラクター化〔ご当地キャラクター、キャラクター商品・土産品〕、鯉を利用したイベント・PR〔鯉のぼり、野球チーム・試合の誘致等〕）</li> </ul> </li> <li>○ その他、竹笛や鎌鋤など福岡町の地場産業の振興とPR（展示機能の充実）</li> </ul> |                  |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>地域の伝承や資源を活性化のシンボル化として活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちづくりの柱として、エコツーリズムを展開する徳島県三好市の祖谷地区では、東祖谷に伝わる平家落人伝説にちなみ、一人暮らし高齢者が、毎朝、軒先に赤い旗を掲げて、自分の安否を近隣住民に知らせる「元氣印の赤旗運動」を実施中。</li> <li>○ 地域に伝わる伝承を資源としたわかりやすい高齢者支援運動は、他の高齢化に悩む地域にも波及し、NHKの「おはよう日本」にも紹介されて大きな反響がある。</li> <li>○ 群馬県館林市は、「世界一こいのぼり里まつり」で、5,282匹のこいのぼりを市内に飾って、『ギネス』の申請。</li> <li>○ 申請後はマスコミにも大きく取り上げられ観光客が増大。申請後の2004年には、前年比4万人増の約15万人が来訪。2009年現在は約19万人が訪れ、市の観光イベントとして定着。</li> </ul>  |                  |

取組イメージ ③

小中学校でのリサイクル活動 (リサイクルを通じた環境教育)

【概要】

- 福岡小学校や中学校、地域住民の取り組みとして、リサイクルを通じた環境教育の場を提供する。
- 給食や食事を作る際や、食べた後に発生する食品廃材を堆肥にし、資源としてリサイクルを行う。
- リサイクルした堆肥を利用して地元農家や住民または子どもたちや家族が野菜を作り、その野菜を学校給食で使用するなど循環体験と活動参加を通じて、環境教育に役立てる。



高岡市立福岡小学校 環境委員会

【参考事例・データ等】

藤沢小学校生ごみ堆肥化事業

- 藤沢小学校では、堆肥化事業の検討を進める中で、藤沢地区市民会議(くらし・まちづくり会議)から生ごみ堆肥化の政策提案を受け、実働部隊として、住民の藤沢小学校生ごみ堆肥化事業運営協議会を結成し、小学校の敷地内に生ごみ処理機を設置。
- 同校の給食から出る残菜と周辺住民の生ごみを堆肥化する実験を平成11年11月から開始している。

【効果】

- 7か月で7.5トンの生ごみが1.5トンの堆肥に。
- 可燃ごみが減り効果が数値化して確認。ダイオキシンの発生抑制
- 住民間でごみ問題への関心や環境教育の必要性への関心の高まり
- 学校児童と地域住民とのふれあう機会と協力体制づくりの広がり

**藤沢小学校**  
**生ごみ堆肥化事業だより**

第4号 2001年12月1日  
発行：藤沢小学校生ごみ堆肥化事業運営協議会(事務局：藤沢市教育委員会教育総務課学校給食室)  
連絡先：〒251-8501 藤沢市相模原1-1-1 TEL0476-22-1111 FAX0476-22-1113

**おかげさまで2年が経過しました**

日頃、藤沢小学校生ごみ堆肥化事業にご協力いただき、ありがとうございます。  
おかげさまで生ごみの投入、堆肥の取り出し配布等の事業活動は、協議会の皆様、ボランティアスタッフ、学校及び行政など多数の方々の協力により、これまで順調に続けていくことができ、また各方面から注目していただく中、この11月で事業開始以来満2年が経過しました。  
今後も、市民と行政の協働による循環型社会に向けたまちづくりの取組の一環として本事業をより一層進めてまいります。引き続き皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、これまでの生ごみ処理量は、下記のとおりです。  
 ● 生ごみ投入・増設開始以降(1999年11月15日～2001年11月25日)  
 ▶ 周辺住民投入(延べ209回) 9,121.1kg(43.6kg/回) 延べ3,834人(18.3人/回)  
 ▶ 学校給食投入(延べ373回) 15,823.9kg(42.4kg/回) 総投入量 24,945.0kg  
 ▶ 焼却物出力(延べ89回) 8,278.9kg(93.3kg/回) 回収率投入量に比して23%

**生ごみの投入箱設置、ボランティアスタッフを募集しています**  
 家庭の生ごみを押さえて投入していただく方を募集しています。押さえていただく方には、水切りバケツを無償貸与しています。投入日は、毎週月・水曜日の午前7～9時と、日曜日の午後2～3時です。また、投入物の立会いや焼却物の取り出し配布作業などのお手伝いをしていただけるボランティアスタッフも募集しております。詳しいことは、運営協議会事務局までお問い合わせください。

**生ごみ堆肥は無料で配布しています**  
 できた堆肥は、毎週日曜日に取付出しを行い、午後3～5時に家庭へ無料で配布しています。どなたでも差し上げますのでお気軽にお越しください。

**NHKラジオで全国に紹介されました!**

本年10月29日(日)にNHKラジオ第1放送の番組「サジいさい!環境編」で、本事業についてボランティアスタッフや協議会委員のインタビューを受けて中継放送で全国に紹介いただきました。(写真は、中継取材の様子)

|   |                 |
|---|-----------------|
| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり   | イ) エコを活用した地域活性化 |
| <p>取組イメージ ①<br/> <b>福岡版エコツーリズムの実践（エコ活動ができる団体の組織化）</b></p>   |                 |
| <p><b>【概要】</b></p> <p>○福岡地域の自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験して学ぶとともに、自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ「エコツーリズム」を実践する。</p> <p>○エコツーリズムは、(1)住民のエコ意識の高まりと活動へとつながる、(2)住民が考え取り組むことが可能、(3)地域固有の自然環境や生活文化等の魅力を見直す、(4)新たな観光振興の可能性と持続的な地域づくりに対する意識の高まりや住民の誇りにつながる、(5)福岡町地域をモデルとして高岡市全体に普及・拡大が図れるなど、多くの効果が期待され地域が元気になることを目的とする。</p> <p>○エコツーリズムの基本理念<br/>         (1)自然環境の保全、(2)環境教育の場として活用、(3)地域振興、(4)交流振興</p> <p>○エコツーリズムの進め方 「大切にしながら」、「楽しみながら」、「地域が主体」という視点を基本に、<br/>         ①関係者が話し合い、②地域の宝を再認識・発見し、③宝を大切に磨き、④ツアー参加者に伝え、⑤その感動をさらに磨く原動力とし、⑥地域の活性化につなげる。</p> <p>(1)参加主体の募集 福岡地域で活動している団体や企業、新たな推進団体などを想定<br/>         (2)推進会議 地域住民、参加主体、土地所有者、有識者、行政機関等で組織<br/>         (3)エコツアー計画作成 参加主体と推進協議会で対象資源、自然保護のルール、実施方法、役割分担などを実践組織がプログラムする<br/>         (4)主な活動内容 里山保全活動（薪、竹炭、山菜、昆虫）、五位地区の蛭の水辺再生、竹の子収穫体験、キノコの森づくり、西山丘陵のカタカゴ・ササユリ群生散策、岸渡川の老桜再生、里山体験や農業体験、アルミ等の製造、リサイクル見学などの産業観光、養鯉体験、菅笠作り体験などの地域文化の体験などを想定</p> <p>○エコまちイベントの開催 廃油リサイクルによるキャンドルナイトイベントやカメラ館と連携したエコツーリズム&amp;エコ写真展、つくりもんまつりと連携したエコイベントなどを実施し、エコまちづくりへ市民協働と住民参加を促す。</p> |                 |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>棚田のオーナー制度で観光交流を増大</b></p> <p>○千葉県鴨川市の「大山千枚田」は、平成11年に「日本の棚田百選」に選定、平成14年に千葉県指定名勝になり、東京から来訪者が増加</p> <p>○田舎暮らし支援、都市農村交流を目標に地域資源総合管理施設「棚田倶楽部」を設立</p> <p>○棚田の維持保全と体験交流等を目的に「棚田オーナー制度」を創設し、平成21年現在、オーナー130組</p> <div data-bbox="790 1489 1412 2004" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大山千枚田のオーナー制度は「作業参加・交流型」です。</p> <p>田植え、草刈り、稲刈り、脱粒、収穫祭など年間7回程度の作業に原則として参加していただきます。すべて手作業です。農家の方がまかに指導します。収穫したのお米はすべてお持ち帰りできます。収穫は、その年の天候と栽培の技術によって左右されます。</p> <p>会費<br/>         作業参加・交流型は1区画(約100平米)で30,000円(年間)です。田の広さにより金額が変わります。<br/>         農作業体験・飯米確保型は1口(100平米)で40,000円(年間)です。</p> </div>   |                 |

取組イメージ ②

**エコ発想の地域グルメの開発・提供（地産地消型の新たな食文化の開発）****【概要】**

- 地域の伝統的食材や料理方法などから、全国で地域の A 級グルメ、B 級グルメが生まれ、観光客の増加や地域製品の売上アップなど、地域経済の発展や地域活性化に貢献している。
- 福岡町地域には、地域で親しまれている五位庄米・赤丸米、栃丘の竹の子、花尾のよしな、里芋、かぶら寿し、食用鯉などの季節野菜・地元食材がある。また、鯉料理レシピなど地元食材の料理が地域で考案されている。
- しかし、富山のます寿し、氷見うどんなどの県内特産品と比較すると、知名度や普及度が低くなっている。また、鯉料理などの福岡町地域の郷土の食材・料理を体験できるレストラン、食堂等の施設も十分に確保されていないのが現状である。
- 地域グルメに、フードマイレージ、地産地消などのエコの視点を取り入れることにより、環境に配慮した新しい食文化の提案やエコ活動の創出が可能となる。
- このため、地域の特産品である食用鯉、里芋等の食材を活用し、新たな地域グルメの創出を目指すことで、福岡町全体のブランド力やエコ活動の活性化等を進展させることが可能となる。
- 展開の方向としては、①エコの視点による地域の伝統的食文化・料理の掘り起こし（地域の人々が食べてきた伝統料理）、②エコ発想から新たな地域グルメ・レシピの考案と家庭・学校・企業等における食文化としての普及・定着化、③地域グルメを体験できる機会・場の拡充（福岡町づくりもんまつり、ふくおか産業フェスティバル等でのグルメ体験、地域グルメが味わえるコミュニティレストラン・食堂の普及や開設、土産品等の地域グルメの商品化）などが考えられる。

**【参考事例・データ等】****地産地消をテーマとした日替わりシェフレ스토랑**

- 京都府亀岡市では、元気な農業、まちの賑わい創出を目標に、地産地消の取り組みを推進。
- 地産地消型日替わりシェフレ스토랑「かめおか四季菜」をオープン。地元食材の使用により食の安全性や流通コストの削減を実現。
- 地元市民が日替わりでシェフを努め、地元農業にこだわったランチ料理を提供。

**【効果】**

- 平成 21 年度実績 会員 50 人 開設日 248 日 8,693 食(1 日 35 食)
- 地場野菜の美味しさや地域の伝統食、食文化の発信
- 食への関心向上、会員の自己実現、地域コミュニティ・地域活性化の促進



| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり   | イ) エコを活用した地域活性化 |
|---|-----------------|
| <p>取組イメージ ③<br/> <b>生活視点からのエコAPPづくり（PCやスマートフォン向けのエコアプリ開発）</b></p>   |                 |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電気料金やガス水道使用量などを入力することで、環境家計簿の作成、二酸化炭素排出量などの計算を行うPC、スマートフォン等のアプリケーションを地域で開発し、住民が利用。</li> <li>○ ガソリンの給油量や走行距離などを記録するエコドライブアプリやふんわりアクセルなどのエコドライブの状況をスマートフォンの加速度センサーを活用してドライバーに伝えるエコドライブナビゲーションアプリなどの利用を推進。</li> <li>○ エアタグ等を活用したエコツーリズムの案内や情報発信などを行うアプリケーションを地域で開発し、観光客が利用。</li> <li>○ 開発したアプリを活用するための体験講座の開設や、コンテストの実施により関心を高めるなどの啓発活動の展開。</li> </ul> |                 |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>人気のエコAPP</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ スマートフォン向けのアプリケーション（APP）の中で、エコをテーマにしたものが数多く登場。</li> <li>○ そのうちのひとつ「トイレでエコ（Toilet de eco）」は、擬似的な流水音を発生することで節水を行うアプリで、楽しくエコ（節水）できるように使用后、使用時間から節水量、節約金額、CO2削減量をランダムに表示し、エコ（使用時間）の累計値により画面の植物が育っていく。</li> <li>○ 現在、一般の学生、会社員、主婦等が、自作のスマートフォン向けAPPを開発・公開するケースが増加。有料APPとして、多くのユーザーの指示を受けるものも登場。</li> </ul>                  |                 |

| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり  | イ) エコを活用した地域活性化 |
|--|-----------------|
| <p>取組イメージ ④<br/> <b>エコをテーマとした写真のまちづくり（ミュゼ ふくおかカメラ館との連携事業）</b></p>  |                 |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福岡町地域に立地する「ミュゼ ふくおかカメラ館」は、写真芸術をテーマとした他地域にないユニークな文化芸術施設である。</li> <li>○ 安藤忠雄の設計によるユニークな建築、定期的に開催される写真展やジュニアフォトコンテストなど、県外者を中心に年間約 1.5 万人が訪れ、堅実な評価を得ている。</li> <li>○ また、近隣の地域社会では、カメラ館前の道路が“カメラ館通り”と呼ばれ、カメラ館から発行される「カメラ館通信」が地域のミニコミ誌として人気を博している。</li> <li>○ 写真芸術は、大自然が織り成す雄大な風景や動植物の生態などを、鑑賞する人に感動をもって伝え、テレビやインターネットとは異なる媒体として、鑑賞者が自然やエコを考える大きな視点を提示している。</li> <li>○ また、デジタルカメラの登場により、カメラや写真が日常生活のなかで身近な存在となっており、交流づくりや記録づくりにはなくてはならない日常生活の必需品となってきた。</li> <li>○ カメラ館のユニークな資源性やカメラや写真の日常性、そして自然やエコとの親和性などをまちづくりのなかで活用することにより、福岡町地域の活性化に結びつけることができる。</li> <li>○ 写真芸術とエコを融合した文化芸術型のエコ活動として、①エコをテーマとした写真展の実施、②地球環境とエコをテーマとした写真賞の創設、③市民を対象とした自然・生物の写真撮影等のための講座等の実施が考えられる。</li> <li>○ また、写真の記録性を活かし、福岡町地域の自然環境やエコ活動の記録や実態把握等へも活用が可能である。また、写真撮影の楽しさ、面白さ等を活用して、子どものカメラを使ったエコ活動の体験等、学習活動、体験活動等においても活用が可能である。</li> </ul> |                 |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>写真フェスタ、写真甲子園で観光交流客の大幅アップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北海道東川町では、写真映りのよい、大自然に恵まれた町であるという特徴を活かし、昭和 60 年、「写真の町宣言」を行い、写真のまちづくりを展開。</li> <li>○ 日本で始めて自治体による国際的な写真賞の「東川賞」、国内外の優れた写真、写真家を紹介する東川町国際写真フェスティバル、全国の高等学校の写真部やサークルを対象とした「全国高等学校写真選手権大会」（略称「写真甲子園」）を実施</li> <li>○ フォトフェスタを中心に、日本内外から多くの人々が訪れ、様々な交流により町に活気が生まれている。また、国際的なイベントの開催により、メディア露出も増大している。</li> </ul>  |                 |



| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり   | イ) エコを活用した地域活性化 |
|---|-----------------|
| <p>取組イメージ ④<br/> <b>旧北陸街道の景観保全（エコをテーマとした旧北陸街道の景観保全と活用）</b></p>  |                 |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ エコの視点から、旧北陸街道がもつ歴史・文化的資源や観光施設等を活用して、滞留性・回遊性を高めるため、旧北陸街道の景観の保全と活用を推進</li> <li>○ 福岡市商工会福岡支部・㈱ウエルカム福岡（TMO）、景観形成市民団体「福岡くらしっく街道の会」等が進める旧北陸街道のにぎわい創出や景観保全等と連携しながら、徒歩や自転車等を利用して、回遊性を高めるルート設定等を進めていく。</li> </ul> <p>①福岡まちめぐり</p> <p>福岡観光物産館（JR福岡駅）～せせらぎ公園～岸渡川～ミュゼふくおかカメラ館～まちの駅ふくおか～菅笠地蔵～まちづくり福岡工房～雅楽の館～長安寺～菅笠の館～島田邸～旧北陸街道・くらしっく街道（景観形成重点地区）～殿様清水～さんちよんぴん蔵～神明宮～あんだんて～ふくおか総合文化センター等のネットワーク化を図り、さまのこなどの伝統的町並み景観が残る旧北陸街道周辺の回遊性をソフト面から高めていく。</p> <p>②エコ市等の設置</p> <p>旧北陸街道～カメラ館通りを会場にエコをモチーフとした市を開催。</p> <p>月1市、週末市、子ども市など、市のもつ自由度を活用して、青空市・ガラクタ市・リサイクル交換市などを開催する。</p> <p>エコの視点から、空き店舗・空き家・空き地等の活用策を検討する。（地産地消等）</p> <p>③イベントやまつり、町内会でのエコ活動</p> <p>町並み景観を活かしたグリーンカーテンや打ち水、五位山竹灯籠など、旧北陸街道周辺住民が主体となり、多くの地域住民の参加のもとで「地域社会でのエコ活動」の推進を図る。</p> <p>④岸渡川の老桜の保全</p> <p>岸渡川沿いの約1千本の桜の保全に向けて、さくら愛し隊が主体となり、多くの地域住民の参加のもとで草刈・補植活動などの「地域社会でのエコ活動」の推進を図る。</p> <p>⑤町屋普及プロジェクト等の設置</p> <p>旧北陸街道の菅笠問屋など伝統ある町家が暮らしやすさを求めた長い間の知恵の大成であり、町の風土や気候に根づいた大切な地域遺産であることを踏まえ、住まい手の目線から町家の建築方式などを研究しそれを伝えていく取り組みを進めていく。</p> |                 |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>子どもがつくる商店街“ミニさくら”（千葉県佐倉市）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 千葉県佐倉市では、子どもが職業体験をできる商店街“ミニさくら”を展開。</li> <li>○ 参加する子どもたちは、商店街に設置された、子どもの職業安定所でやりたい仕事を選び、「仕事カード」を入手。選んだ仕事のブースに行き、好きなだけ働く。労働時間に応じた給料は、銀行で独自通貨のモールとして受け取り、商店街で自由に使うことができる。</li> <li>○ 仕事の種類は、市議会・警察などの行政機関、手打ちうどん・サンドイッチなどの飲食店、紙漉き・竹細工などの手作り工房などのほか、新聞社・発電所・デパートなどの40種以上。</li> <li>○ 子ども社会教育、職業体験とともに、中心市街地や商店街の新たな活性化の手法として注目を集める。</li> </ul>  |                 |

| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり  | イ) エコを活用した地域活性化 |
|--|-----------------|
| <p>取組イメージ ⑤<br/> <b>エコまちアカデミーの開講（エコに係る地域リーダー育成とCB・SBの起業支援）</b></p>   |                 |
| <p><b>【概要】</b></p> <p><b>CB・SBの起業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 近年、地域社会の資源を活かしたCB（コミュニティビジネス）、SB（ソーシャルビジネス）の取組が、全国で活発化している。</li> <li>○ エコの分野においても、今後の社会性・事業性・革新性等の観点から、CB、SBへの期待が社会的に高まっており、地域のエコ問題の解決、エコの導入による地域活性化等において、実績をあげるCB、SBが増加してきている。</li> <li>○ しかし、こうしたCB、SBの起業・創業については、個人や地域社会が経験やノウハウなしで取り組むことにはさまざまな課題を有している。</li> <li>○ こうしたなかで、地域社会のCB、SBの起業・創業化を社会的に支援する仕組みとして、先進的地域では、地域の活性化や人材開発、地域協働の観点から、大学等と連携した起業・創業セミナー、キャンパスづくりなどが行われている。</li> <li>○ 福岡町地域においても、JR福岡駅舎、交流センター等を利用して、大学等と連携したサテライトキャンパス等を設置し、CB、SBの起業・創業化支援等の「エコまち」を展開するための学習プログラム等を展開していく。</li> </ul> <p><b>地域リーダー育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ エコ導入による地域活性化等には、住民参加による地域の課題発見と、課題解決のための活動を行う「人材」が必要不可欠である。</li> <li>○ 住民一人ひとりの能力開発、研修などを行い、活動の立ち上げを行っていく地域リーダーの育成が重要である。</li> <li>○ こうしたなかで、地域リーダー育成の手法として、先進的地域では、地域住民、企業、市、大学、関係機関等と地域リーダーの担い手からなるパートナーシップ組織を設置している。</li> <li>○ 地域リーダーの担い手に対し、国や市の地域再生事業などの政策や協働の理念、住民参加や合意手法など、まちづくりを進めていくために必要な知識や技術を習得する機会を設けている。</li> <li>○ 地域リーダーの担い手が活動に尽力できるよう活動費等の間接支援を市民の環境団体などが支えている。</li> <li>○ 地域リーダーの担い手を中心となって、実働部隊を設置し、持続可能なエコまちづくりの活動計画を作成し、パートナーシップ組織が審議し、一緒になって行動へと展開していく。</li> <li>○ 地域住民が望むものは地域にとって長期的に利益になるものである。結果的にそれは環境保全に資するものであり、これらの「地域リーダー育成手法・パートナーシップ組織・活動へのプロセス形成」への支援は、持続可能な地域主導エコ環境づくりへの有効な手段となる。</li> </ul> |                 |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>サテライトキャンパスの起業のための専門知識を（川崎市）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 神奈川県川崎市では、地元大学（専修大学）と協働協定をむすび、地域でCB、SBを始めたい人のための起業支援プログラム「KSCコミュニティ・ビジネス・アカデミー」を開講。</li> <li>○ 半年間のカリキュラムのなかで、NPO等の設立、サービスづくり、マーケットの把握など、総合的で実務的な講習を受ける。</li> <li>○ また、受講を通じて形成された人的ネットワークを、修了後の起業や活動づくりのための資産としても活用。</li> </ul>  |                 |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり   | ウ) エコが体感できるエコモデル地区づくり |
| <p>取組イメージ ①<br/> <b>福岡環境ルールブックの発行（地域版環境ルールの創設）</b></p>  |                       |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭や地域社会、まちづくりの中で実践されているエコ活動をルール化して、福岡町地域全体で共有。</li> <li>○ ①住民や企業向けのエコのルールづくり、②地域活性化に向け、観光客・来訪者等を対象としたルールづくりなどがある。</li> <li>○ ①住民や企業向けのエコのルールは、地域で守るべき行動規範、目標等をルール化（景観づくり、ゴミ出し・リサイクル等）。</li> <li>○ ②観光客・来訪者を対象としたルールは、観光客の地域の関心や愛着を高めるものをルール化（福岡ではこれを食べるし、必ずここは訪れるべし等）。</li> </ul>   |                       |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>地域で環境に関するルールづくり（水俣市）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「自分たちの生活環境は自分たちで守る」ことを目的として、地域の環境を保全していくために、地区の住民が環境保全に関するルールを決め、環境協定を結んでいる。</li> <li>○ 協定の締結には、地区内の全世帯の署名捺印が必要となり、協定の締結が難しい協定だが、行政の積極的なサポートなどによって地区環境協定の締結を促している。</li> <li>○ 地区全員の了承のもとに結ばれる協定であるため、お互いに注意しやすい環境が創出され、迷惑行為などの減少にも繋がっている。</li> <li>○ また、協定を締結し住民同士が協力しあう中で絆をさらに深め、環境への取り組みに拍車をかけている。</li> </ul> |                       |

## 取組イメージ ②

## 市民の手づくり菘川公園ビオトープ（菅・錦鯉など地域生物を使った環境づくり）

## 【概要】

- 菘川の公園づくりの中で、福岡町地域で自生する植物や菅を植えたビオトープを形成する。また、菘川や周辺の水路等を利用して錦鯉の放流等を行う。
- 福岡駅前イベント広場内に特産の鯉池や水路、水車など、市民が楽しめる水辺空間を設ける。菘川を水源とし、水車を使用しイベント広場の高さまで上げ、子ども同士や親子が見て楽しんだり遊んだりできる空間をつくる。
- 公園づくり、ビオトープづくりには、実際使うのが市民であることを踏まえ、住民の意見・要望等を反映するための手法としてワークショップ等によってアイデア、意見等を集約する。
- 整備後の管理も行政まかせにせず、ビオトープについては、学校教育、社会教育等における活用を図り、地域住民による自主的な管理・保全等を検討する。
- 福岡中央地区都市再生整備計画において、H22年度より（仮称）地域交流センター整備に向けて事業促進を図っている。今後、イベント広場、菘川公園の整備へと事業展開することを考慮し、これらの整備に向けたワークショップ（地域住民・市・アドバイザー〔ビオトープ施工管理士等専門家〕などが参加）を設ける必要がある。
- 公園やビオトープの整備などに、住民が自ら考え参加し、維持管理までかかわっていくことが、地域への愛着を深め、積極的に活動に関わろうとする意識が芽生えるきっかけとなる。また、地域環境学習の機会にもなる。

（環境省の参考事例 <http://www.env.go.jp/water/junkan/case2>）

## 【参考事例・データ等】

## かつての湧水池をビオトープとして再生（東京都三鷹市）

- 東京都三鷹市では、かつての湧水池「丸池」を市民協働型のワークショップにより、ビオトープなどを含む公園として再生。
- 戦後の都市化により、美しかった湧水池は、生活排水や工場用水の流入、不法投棄の横行などで環境悪化、昭和40年代に埋立化。
- 市民が中心となって、「原風景の再生」、「きれいな水の復活」などを目標として、平成8年から、「丸池復活プランづくりワークショップ」を開始。
- 市民延べ1,000人がワークショップに参加。市民主導により、公園のデザインや利用方法を検討。
- 平成12年に、ビオトープを含む丸池公園が復活。現在は、住宅地の中に、子どもが自然と水・泥に触れる体験が可能な遊びの場、憩いの場所を形成。

| (2) 福岡の個性や特徴を活かしたエコのまちづくり   | ウ) エコが体感できるエコモデル地区づくり |
|---|-----------------------|
| <p>取組イメージ ③<br/> <b>安心・安全・快適な福岡エコロード（エコの観点による新時代の道路整備）</b></p>  |                       |
| <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもから高齢者まで、地域住民だけではなく観光客・来訪者もが、安心・安全・快適な道路環境をエコの観点から整備を図る。</li> <li>○ LEDを設置した明るくエコな街路灯、歩行者を優先した歩きやすい道路環境、エコカーの利用を促す誘導装置（充電スタンド等）、自転車やパーソナルモビリティが走行可能なレーンの設置、エコサインの導入等、エコロード化の検討を図る。</li> <li>○ 降雪検知器により降雪強度を判断し、散水管内の圧力センサーに基づいてインバーターによるポンプの省エネ運転を実施することで、省エネやCO<sub>2</sub>の削減に効果のある「インバーター可変散水方式」による散水消雪を整備する。</li> <li>○ 街路樹の剪定枝と下水汚泥などを活用したコンポストにより、良質な堆肥化を作り出し、道路緑化の堆肥として活用するリサイクルシステムを構築する。</li> <li>○ 道路沿道の住民の参加による道路アドプトプログラムの実施に向けた、道路維持支援組織の発足などを推進する。</li> <li>○ ところどころに案内版やサイン、面白い構造物（例えば菅笠地蔵など）、街路樹や緑のポケットパーク、木のベンチ、歩きやすいゆったり歩道、段差のないバリアフリーの視点に立った人に優しい歩行者優先の道路などの整備促進を図る。</li> </ul> <div data-bbox="767 400 1420 1061" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"> <small>国土交通省金沢河川国道事務所</small><br/> <a href="http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb2_jigyo/road/meltsnow/index.html">http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/mb2_jigyo/road/meltsnow/index.html</a> </p> </div> |                       |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>太陽光充電施設整備によるエコカーの普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊田市は環境モデル都市の1つとして、「ハイブリット・シティ とよた」のコンセプトで、低炭素社会の実現を推進</li> <li>○ 「交通」「産業」「森林」の3分野の取組から、CO<sub>2</sub>の排出量を2050年までに50%削減を目標化</li> <li>○ “くるまの町”の特性を活かし、次世代エコカーの普及を促進するため、太陽光充電施設を整備。</li> </ul>   |                       |

## 取組イメージ ④

## エコモデル地区の形成と体験モデル施設の開設（駅舎や新たな拠点“地域交流センター”活用）

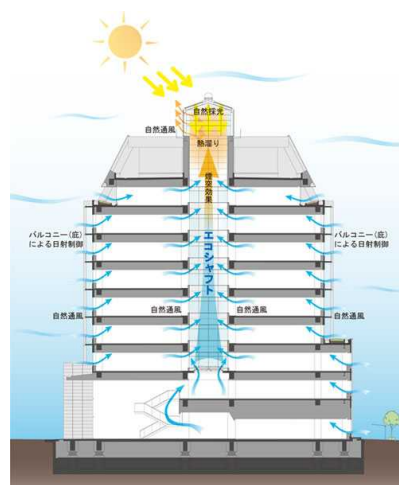
## 【概要】

- 福岡町地域で住民や来訪者等がエコを実感できるエコモデル地区や対象施設（エコモデル自治会、エコモデル学校、エコモデル企業等）を形成し、地域社会のエコ活動の推進やエコツーリズムの展開等において活用を図る。
- エコモデル地区や対象施設は、駅前や中心地区などの交流性、拠点性のある地区を中心に、地域主導でエリアや対象施設の選定を行っていく。
- 駅前に新たに整備することが決定している地域交流拠点施設（地域交流センター、イベント広場、蓑川公園など）に、エコを実感・体感できるハード設備やソフト事業の展開を図る。（住民への見える化と意識醸成）
- 蓑川や岸渡川には水車発電、太陽光発電イルミネーションなどで夜間の防犯機能確保
- 蓑川プロムナードなどの整備には岸渡川との回遊性を高めるため、桜などの植樹により統一感を持たせる。
- 自然エネルギーの有効活用を目指し、自然風を取り入れた夏季の冷房負荷の軽減、冬季の日射熱の活用や、遮熱カーテンやグリーンカーテン、屋上緑化、管材によるすだれなどの日射遮蔽の工夫を行う。
- ヒートアンドクールチューブ方式などにより、地中熱を活用した冷暖房負荷の軽減、太陽光パネルや太陽熱集熱パネルの設置
- 外断熱やペアガラスなどの採用による冷暖房の効率化
- 多灯分散照明方式やLED照明の採用による効率的で省エネルギーな照明設備
- ヒートポンプ式などの高効率な給湯設備、節水型トイレなどの整備
- 地場産材の木材の使用や、地場産のエコ製品、リサイクル製品の使用
- 鯉、菅（笠）、竹笛、鎌鋤など福岡町の地場産業の振興とPR（展示機能の充実）

## 【参考事例・データ等】

## 環境に配慮したエコオフィス

- 福島市役所新庁舎東棟では、3階から屋上まで煙突状の吹き抜け空間「エコシャフト」が設置されました。暖められた空気が軽くなり上昇するのを利用し、風のない日でも窓から執務室内へ外気を取り入れることができる。
- 自然換気を有効活用して、換気に必要な消費エネルギーを削減する。また屋上緑化のほか、雨水の有効利用、井戸水などの自然エネルギーの活用など、省エネ、省資源に配慮している。



福島市役所ホームページ：  
[http://www.i-fukushima.jp/f-citypro/?page\\_id=12293](http://www.i-fukushima.jp/f-citypro/?page_id=12293)

### (3) エコを活かした未来に向けた福岡のまちづくり

#### ア 地域エコ産業を活かした先進的なまちづくり

福岡町地域には、アルミスクラップのリサイクルやLED技術を採用した自発光タイルの販売など、先進的なエコに取り組んでいる企業が多いことや、農業や養鯉業、菅笠などの伝統産業などにおいても環境にやさしい取組を行っており、古くから地域の環境を大切にしている心掛けが根付いている土地である。

- ① 福岡方式のリサイクルシステムの構築（資源循環型のまちづくり）
- ② 新エネルギーの地産地消（バイオマス、太陽光発電等による新エネルギーの活用）
- ③ エコファーム、エコフォレストの創生（農林業のエコ化の推進）

#### イ 地域の森林や里山文化を活かしたまちづくり

福岡町地域の北西部に広がる丘陵地には、タケノコ、しいたけ、じねんじょの生産や林業などの生業と里山の伝統的な集落が息づく里山文化が形成されており、人と自然が共生する理想的な環境を形成している。しかし、里山地域においては人口減少や少子高齢化の進行や農林業の衰退など多くの課題を抱えており、これまで里山の維持を担ってきた農家や地域のコミュニティだけがその役割を引き続き担うことは困難になっている。

- ① トンボやホタルの見られるまちづくり（生物多様性の保全）
- ② 里山で「人・もの・情報」を活性化（里山の活用）

#### ウ 福岡地域スマートタウンづくり

福岡中央地区（駅前周辺地区）は、公共交通の拠点である福岡駅を中心に、旧北陸街道や岸渡川・蓑川などの美しい景観が形成されているコンパクトな地区である。この条件を活かし、省エネ住宅やHEMS、BEMSなどによるエネルギーの効率化を推進した建築物の建築の推進、電気自動車のカーシェアリングや電気バスの運行、充電インフラの整備、自転車ネットワークの形成やコミュニティサイクルの整備、グリーン通勤の推奨など、電力や建設、公共交通、情報などが連携した、モデルとなる省エネ型の先進的なまちづくりを検討する。

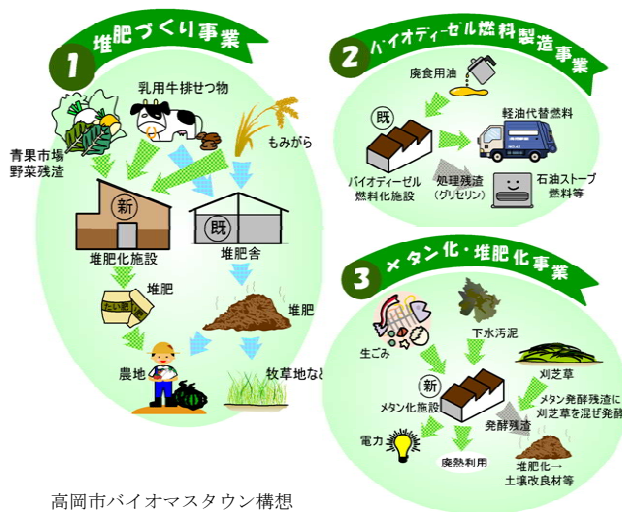
- ① 先進的なエコハウスとエコオフィスづくり（省エネ住宅・省エネビル・省エネ工場の建設推進）
- ② 次世代型エコ交通システムの構築（環境にやさしい交通の充実）
- ③ 福岡型環境展の開催（環境に優しい地場産業の振興）
- ④ 福岡町地域のためのエコ基金創設（地域版のエコファンドの創設）

取組イメージ ①

### 福岡方式のリサイクルシステム構築（資源循環型のまちづくり）

#### 【概要】

- 家庭や給食などから発生する食品残渣、家畜排せつ物、もみガラ、菅笠のくずなどの有機性資源を一元的に収集し、良質な堆肥を生産して地域の農地へ供給する環境保全型農業を推進する。
- 生産者（製造者）・消費者・リサイクル事業者の連携により、効率的な資源循環のまちづくりを推進し、ゼロエミッション地域を目指す。
- 家庭や事業所での適正なごみ分別、3Rを推進し、アルミスクラップなどリサイクル可能な資源の分別・リサイクルを推進し、現金化できるものは積極的に現金化する。
- 食品トレー、牛乳パック、ペットボトルのふたなど、スーパーマーケットや小売業者などと連携した回収システムの構築を推進する。
- 廃油回収のPRや回収の促進を図るとともに、バイオディーゼル燃料を活用したごみ回収車、バス、除雪車の運行など、市民が協力して分別した廃油が、どのように活用されているかを知る機会を増やす。
- 福岡高校などJR福岡駅から自転車通学している生徒の自転車を卒業時に無償提供してもらい、メンテナンスをして新入生に譲っていくリサイクルシステムを構築する。
- 生ごみや下水汚泥、刈草をメタン発酵させ電力や廃熱利用などを行う施設整備や発酵残渣の堆肥化などに取り組む。
- ごみ焼却施設などから発生する溶融スラグと道路工事などで発生するアスファルト廃材などをリサイクルし、再生アスファルトを製造し道路工事に使用する地域完全循環型のシステムを構築する。
- 福岡地域での循環型システムづくりのため、市民参画による「資源循環型まちづくり計画」を策定し、リサイクルシステムの現状や課題、実現の可能性、工程、市民・事業者・行政の役割分担などを検討する。



高岡市バイオマスタウン構想

#### 【参考事例・データ等】

### 福祉作業と連携した食品トレーのリサイクルシステム

- 食品トレーを福祉施設が回収・分別し、事業者がリサイクルして再商品化するという食品トレーのリサイクルシステム「新庄方式」を、市民・事業者・行政の協働により実施している。
- 食品トレーは、スーパーマーケット店頭・市立小学校・一部のごみ集積所・市役所の回収拠点にて「たんぼぼ作業所」により回収・分別され、「友愛園」によりペレット化される。これを原料として(株)ヨコタ東北で再商品化されトレーとして出荷される。
- 当初の食品トレーの回収拠点はスーパー店頭のみだったが、市立小学校（3Rについての意識付けという環境教育の一環として設置。）、ついで一部ごみ集積所へと拡大し、今後も要望があれば回収拠点の更なる拡大を検討する。
- 市民への啓発活動を通じ、より広く利用されてより効率的なリサイクルシステムを目指す。



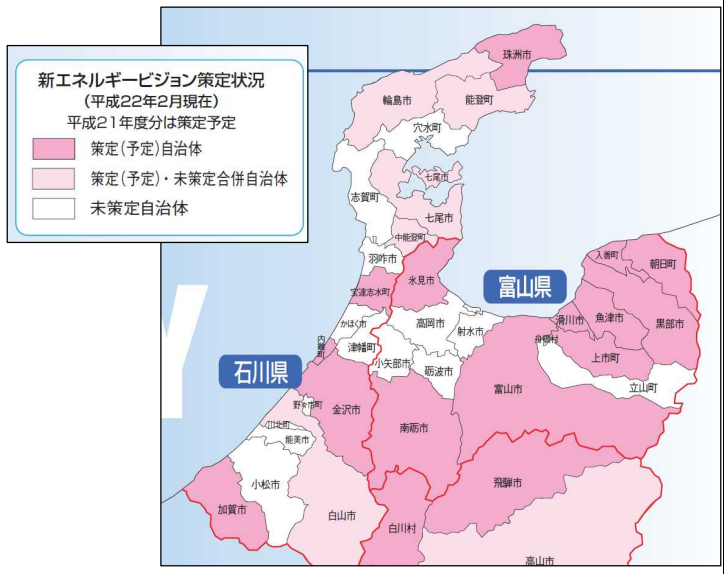
|                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| (3) エコを活かした未来に向けた福岡のまちづくり | ア) 地域エコ産業を活かした先進的なまちづくり |
|---------------------------|-------------------------|

取組イメージ ②

新エネルギーの地産地消（バイオマス、太陽光発電等による新エネルギー活用）

【概要】

- 林地残材等の収集・運搬の効率化に資する移動式木材破砕装置等の機材等の整備や、バイオマス発電施設、ペレット製造施設等の木質バイオマスエネルギー供給施設等の整備、公共施設等におけるボイラー等の木質バイオマスエネルギー利用施設等の整備などにより、中山間地域で発生する間伐材による木質バイオマス利用を推進する。
  - 農業用水などの利用については水利権の調整や売電価格などの課題を整理しながら、蓑川や岸渡川、農業用水などを活用した環境に優しいエネルギーとしての小水力発電の導入・普及を検討する。
  - 住宅や事業所などへの太陽光発電の設置促進のため、補助制度の更なる活用やモデル地区への優先的な設置普及などを推進する。
  - 耕作放棄地や未利用地などにおいて、太陽光発電パネルを設置し、地域の電力を供給するシステムを検討する。
  - その他、五位ダム周辺などの里山地域における風力発電などの設置検討や、市民の出資による風力発電の設置など、環境に優しい新エネルギーの活用を総合的に進めることで、新エネルギーの地産地消を進める。
  - 福岡地域での新エネルギー循環システム、スマートグリッドなどのシステムを構築するため、市民参画による「新エネルギープラン」や「バイオマスタウン構想」を策定し、新エネルギーやバイオマスエネルギーの現状や課題、実現の可能性、工程、市民・事業者・行政の役割分担などを検討する。
- ※ スマートグリッドとは、新しい機能・能力を持った電力網。ここでは限られたエリアでエネルギー供給源から末端消費部分で通信網で管理する場合の定義として使う。



【参考事例・データ等】

都市全体でCO2を削減

- 新潟県上越市では、「都市構造再構築におけるCO2削減」、「循環構造の形成によるCO2削減」、「住民自治・生涯学習の推進によるCO2削減」、「広域的なCO2削減の貢献」の4つの柱を軸に、事業を展開している。
- 住民自治・生涯学習の推進によるCO2削減としては、新エネルギーシステムの設置費補助として、市民の新エネルギーシステムの導入を促進するため太陽光発電、地域資源である雪を活用した冷房・冷蔵や上越産の木質ペレットを利用できるストーブの購入に対して補助を行っている。



取組イメージ ③

環境保全型農業

森づくり

エコファーム、エコフォレストの創生（農林業のエコ化の推進）

【概要】

- 「資源循環型のまちづくり」「バイオマスによるエネルギーの地産地消」を推進するためには、資源の生産者である農林業や養鯉業者などの協力が不可欠である。
- 農業では、土づくり・化学肥料の使用低減・化学合成農薬の使用低減などによる持続性の高い生産方式の導入を推進する。
- 森林の適正な維持管理による生物多様性の保全を推進するとともに、間伐材の木質バイオマス利用、薪ストーブやペレットストーブの燃料としての活用などを推進する。
- 養鯉業においても、ポンプや水温調整の省エネ化などを推進する。
- 農林業の持つ物質循環機能を活かし、環境負荷の要因となる肥料や有機質資材、農薬などの適正な使用によって、土壌、水、大気、生態系等への負荷低減と、農薬残留などが起きないように、農林産物の安全性確保に最大限努力するよう努める。
- 環境保全型の農林業推進のため、農林業者自らが、農林業による環境負荷を正しく認識し、環境と安全に配慮した農林業に主体的に取り組むよう啓発を進める。
- 環境と安全に配慮した農業生産の取組について、わかりやすい情報発信等に努め、地域住民に環境と安全に配慮した農業への理解や協力を得られるように努める。
- 生物多様性の保全に配慮した農林水産業の実施と産物等を活用してのコミュニケーションである「生きものマーク」の取組を実践し、福岡地域などの消費者へ発信する。
- 福岡地域でのエコファームづくりを推進するため、営農者や消費者の参画による「環境保全型農業推進計画」等を策定し、エコファームの現状や課題、実現の可能性、工程、市民・事業者・行政の役割分担などを検討する。

【参考事例・データ等】

亀岡カーボンマイナスプロジェクト

- 2008年11月から亀岡市、立命館大学地域情報研究センター、龍谷大学LORC、地元関係機関などが連携し、亀岡市内追分町及び保津町の農地で、未利用バイオマス（未利用竹端材・食品残渣等）から作られた炭を牛フン堆肥に混ぜて散布・埋設し、無機炭素である炭を土の中に入れて炭素を隔離するプロジェクトを進めている。
- この狙いは、石油などの化石燃料等の利用により増加する二酸化炭素量を、炭を埋めることによって相殺（オフセット）し、そのオフセット分を排出権取引の中で農村から都市部の二酸化炭素発生者へ販売する。
- その結果として都市からの資金を農業地域に流入させるとともに、この炭堆肥を使った二酸化炭素削減農法で栽培された地球に優しい農産物「クールベジタブル」（略称：クールベジ TM）の地域内循環を目指して、経済の活性化と地域協働による新たな社会システムの開発を行っている。

「たかしま」の田んぼプロジェクト  
 滋賀県 高島市 水田農業

生きものマークガイドブック（農林水産省）

みんなの給食に  
 クールベジ  
 登場の場

「クールベジ」は「クールベジタブル」のことである

亀岡でとれた「クールベジ」

龍谷大学政策学部ホームページ：  
[http://ryukokupolicyblog.net/seisaku/inoue\\_03](http://ryukokupolicyblog.net/seisaku/inoue_03)



|                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| (3) エコを活かした未来に向けた福岡のまちづくり | イ) 地域の森林や里山文化を活かしたまちづくり |
|---------------------------|-------------------------|

取組イメージ ①

トンボやホタルの見られるまちづくり (生物多様性の保全)

【概要】

- 里山の生態系や動植物種は、地域の生物多様性の重要な構成要素であり、里山の適正な維持管理のため、地場産材の利用促進や担い手育成、効率的かつ先進的で持続可能な営農活動の実施など、生物多様性を支える基盤である農林業活動や農山村の地域コミュニティの積極的な維持を推進する。
- 福岡地域の豊かな自然を今後も守り続けるために、河川や用水を多自然型河川に改修することや、ビオトープ空間の整備などにより、生物の生息できる環境づくりを推進する。
- 中山間地域の豊かな自然や、農地、社寺林、公園の緑のほか河川沿いの桜並木など、点的な緑を線としてつないでいく、緑のネットワークの形成を推進する。
- 公園や道路、公共施設の緑化、事業所や住宅の前庭などの民有地緑化など、緑の再生や緑化の推進に努める。

- 福岡地域での生物多様性を保全するため、市民の参画による「生物多様性戦略プラン」等を策定し、地域の生物多様性の現状や課題の把握、実現の可能性、保全手法、工程、市民・事業者・行政の役割分担などを検討する。
- 五位山地域での課題「不明境界線」を地権者や地元住民の協力のもと解決策を検討する。



生物多様性神戸プラン 2020

【参考事例・データ等】

失われた原生林再生プロジェクト

- 北海道帯広市にある『帯広の森』は面積 406.5ha の広さをもつ大規模な都市公園で、これまで多くの市民の手によって植樹や間伐などの森づくりがなされ、まちづくりのシンボルとなっている。
- 原生林の開墾で失われた森を 100 年の年月をかけて再生し、市街地を包み囲むという壮大なもの。
- 『帯広の森』は緑による潤いや安らぎを提供するとともに、散歩やスポーツなど余暇への利用、生物のすみかの提供と生物多様性の確保、森づくり活動を通じた環境教育への利用などが期待されている。
- 植樹や樹木の生長による CO2 の吸収、森づくりで発生する間伐材などのバイオマス資源の利用は地球温暖化防止とともに、資源循環型低炭素社会のまちづくりに向けた市民意識の高揚にも効果が期待されている。

取組イメージ ②

里山で「人・もの・情報」を活性化（里山の活用）

【概要】

- 里山の保全・活用については、農林業者や集落の地域コミュニティだけではなく、都市住民や企業なども含めた幅広い主体の協働が不可欠であり、里山に対する市民の関心を高める環境教育の推進などが求められる。
- 都市と農山村の間で「人・もの・情報」の行き来を活発にすることで、人々が都市と農山村を双方向で行き交うライフスタイルの実現を推進する。
- 人と自然が共生してきた里山の魅力をアピールし、農林業活動や田舎暮らしの体験や外国人ツアーの受け入れなど推進する。
- 里山の魅力や重要性について、わかりやすく訴える広報・普及活動の推進や関心を高める機会として、環境学習、農林業体験、里山の維持管理体験など幅広い層の参加と自然保護団体やナチュラリスト等の育成を促進する。
- 自然環境や野生生物の情報を把握するための調査を進め、里山の動植物の分布状況や生息・生育環境との関係についての情報充実及び里山保全ルール化を推進する。

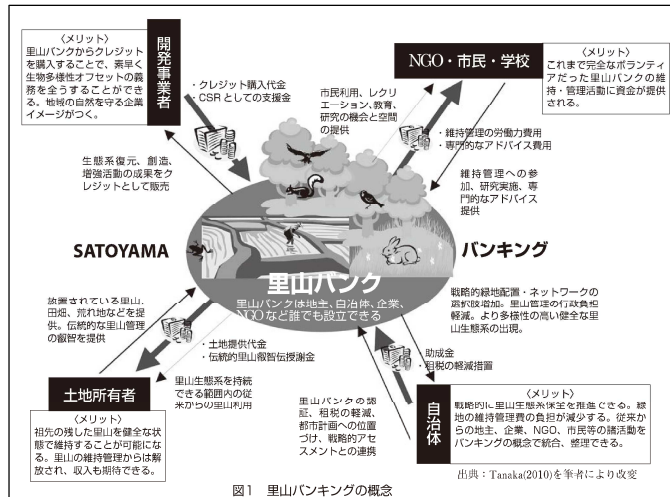


図1 里山バンクの概念

出典：Tanaka(2010)を筆者により改変

- 荒廃した森林の再生等にあたり、地域の安全・安心を確保する対策を推進するとともに、崩壊地等における在来種を用いた緑化、水生生物などの生息環境の保全に資する緑の整備、水生生物等の移動性を確保する治山施設の整備等を推進する。
- U・I・Jターン者を含む森林整備・保全を担う人材の確保、育成を目指す。
- 棚田オーナー制や市民農園や里山バンクの実現を目指す。
- 山林保全の解決策（委員提案） ①推進組織づくり、②地域に呼びかけ人を集める、③広範囲に呼びかけ人を集める、④伐採作業実施、⑤伐採後の雑木をリサイクル（ペレットづくり）、⑥エコ拠点等へペレットストーブ導入、⑦効果を測定、⑧まちづくり会社等でペレット製造機械を購入、⑨一般家庭に普及、⑩ストーブ製造会社を誘致・起業、⑪エコ循環システム完成

【参考事例・データ等】

多世代で関わる里山づくり

- 千葉県鎌ケ谷市は、都心から25km圏内にあり、市域の土地利用は、おおよそ半分は畑、山林等で占められており、近郊農業が盛んとなっている。新鎌ケ谷駅周辺では、私鉄3線の結節点という優位性を生かしたまちづくりが進められている。
- 一方で、里山や平地林は、都市開発の進行により細分化され、減少しつつある。そのなかで、新市街地に隣接する「栗野の森」から大津川に至る地域は、豊かな生物が生育・生息している二次的自然としての里地里山である。その保全に市民が自発的に取り組んでいるのが、「栗野の森の会」と「大津川水質浄化委員会」である。
- 「栗野の森の会」では、毎月、森道の整備やゴミ拾いのほか、夏休みこども自然観察会の開講など、各種勉強会を実施している。
- また、「大津川水質浄化委員会」では、ひまわりエコプロジェクトによるエコクッキング、小学生による搾油体験、湧水調査などに取り組んでいる。これらの取り組みは、自然と共生する地域社会を実現しようとするものである。

| (3) エコを活かした未来に向けた福岡のまちづくり   | ウ) 福岡町地域スマートタウンづくり |
|---|--------------------|
| <p>取組イメージ ①<br/> <b>先進的なエコハウスとエコオフィスづくり (省エネ住宅・省エネビル・省エネ工場の建設推進)</b></p>  |                    |
| <p><b>【概要】</b></p> <p>(1) 先進的なエコハウスづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 太陽光発電や太陽熱給湯器などの設置を推進するとともに、発電量や家庭内の消費電力量を「見える化」するシステムの導入を推進する。</li> <li>○ 家庭内の住宅設備機器、エネルギー機器、家電品などや、家庭の様々なシステムと連携し、エネルギーを効率的に利用するHEMS（家庭用エネルギーマネジメントシステム）の導入を推進する。</li> <li>○ ヒートポンプ給湯器（エコキュート）や潜熱回収型ガス給湯暖房機（エコジョーズ）などにより、省エネで高効率な給湯・空調対策の導入を推進する。</li> <li>○ 二重サッシやペアガラスによる窓の断熱、屋根や壁、床の断熱、節水型トイレ、高断熱浴槽などによるエコリフォームを推進する。</li> <li>○ 雨水タンクによる庭の散水利用を推進する。</li> <li>○ 朝顔やゴーヤなどによるグリーンカーテンを個人・企業等のあらゆるところで植え、楽しみながら省エネ対策を推進する。</li> <li>○ 家庭の電化製品買い替え時には、省エネラベルを確認し、省エネ効果の高いトップランナー製品を購入する。</li> </ul> <p>(2) 先進的なエコオフィスづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 太陽光発電や太陽熱給湯器などの設置を推進するとともに、発電量や事業所内の消費電力量を「見える化」するシステムの導入を推進する。</li> <li>○ センサーなどにより、室温の計測や在室人数などのオフィス内の状況をリアルタイムに把握し、室内の状況に応じた照明や空調等の効率的で最適な運転を制御することで、ビル全体のエネルギーをマネジメントするBEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）の導入を推進する。</li> <li>○ 省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、事業主などの利益と地球環境の保全に貢献するビジネスであり、省エネルギー効果の保証等によりお客様の省エネルギー効果（メリット）の一部を報酬として受取る「ESCO事業」の導入を推進する。</li> <li>○ 高効率な空調機や熱源機、高性能のボイラーへの切り替え、LED照明やインバーター照明の採用などを促進し、工場などの省エネルギー化を推進する。</li> <li>○ 工場やビルの省エネルギー化、地球温暖化対策を支援するため、経済産業省・財省エネルギーセンターで実施している「省エネルギー対策導入指導事業（省エネ診断）」による工場やビル等の施設における無料の省エネ診断を推進する。</li> <li>○ また、小中学校のエコスクール化や公共施設における太陽光発電や太陽熱給湯器などの設置を推進する。</li> </ul> |                    |
| <p><b>【参考事例・データ等】</b></p> <p><b>南国のスマート市役所</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 沖縄県糸満市は、「糸満市新エネルギービジョン」を平成8年度に策定。</li> <li>○ 平成14年春に竣工した新しい市庁舎には、地方自治体では最大級の195.6kwの太陽光発電システムを設置。庁舎で使用する電力量の12%を発電すると同時に、冷房に必要なエネルギーを25%低減。</li> <li>○ また、南面ではルーバーがお互いに影にならないように配置することで、日差しや風雨から守られた巨大な軒下空間「アマハジ」が生まれ、環境共生庁舎の象徴となっている。</li> <li>○ 庁舎1階市民ホールでは発電量、CO2削減量等がリアルタイムに表示され、子供からお年寄りまで、市民はもとより国内外からも訪れる様々な人々にエネルギーの大切さと太陽光発電システムの可能性、糸満市での取組みを伝えている。</li> </ul>  |                    |

## 取組イメージ ②

## 次世代型エコ交通システムの構築（環境にやさしい交通の充実）

## 【概要】

- 富山県は、一世帯当たりの自動車保有台数が 1.72 台と全国 2 位（H19 年度）であり、自動車の依存率が高い地域である。福岡中央地区は J R 北陸本線福岡駅に隣接し、公共交通の利便な地区であることから、自動車に依存しないエコな暮らし方を実現することで、スマートタウンづくりを目指す。
- 電気自動車によるカーシェアリングシステムの構築や電気バスの導入、急速充電器などの充電ステーションの整備を推進し、環境負荷の少ない交通システムの構築を目指す。
- また、自転車道の整備や車道部の自転車走行空間の確保による自転車ネットワークの整備充実を推進するとともに、主要施設での借り返しが自由なレンタサイクルシステム（コミュニティサイクル）の構築を推進し、自転車に乗りやすい環境づくりを推進する。
- 福岡中央地区において安全安心な道路づくりを推進するとともに、ポケットパークなどを整備し、回遊性のあるまちづくりを推進する。
- バス停やバス車両にソーラーパネルを設置。街灯のエコ化やエコバスの導入、現バス車両においては、排気器具改良を行い、CO2 排出量を抑える。また、CO2 排出量は計量化し、住民に公表する。



高岡市長と電気自動車（庁用車）



高岡市役所に設置されている急速充電施設

## 【参考事例・データ等】

## エコの普及を目指す自転車のまちづくり

- 香川県高松市では、温暖少雨の気候で日照時間が長いことや平坦な地形が多いという地域特性を活かし、太陽光エネルギーの活用や自転車を利用した都市づくりを推進するなど、温室効果ガス排出抑制の施策・事業に取り組んでいる。
- 「高松地区における自転車を利用した都市づくり計画」において、環境にやさしく機動性に優れた自転車を自動車に替わる都市内交通の重要な手段として位置づけ、カーフリーデー高松の実施している。
- 安全な走行空間を確保するために、歩行者道と自転車道の分離や車道の一部を利用して自転車道を確保する実証実験の実施。
- 駐輪場の整備、レンタサイクルの充実など、自転車の利用促進を図っている。



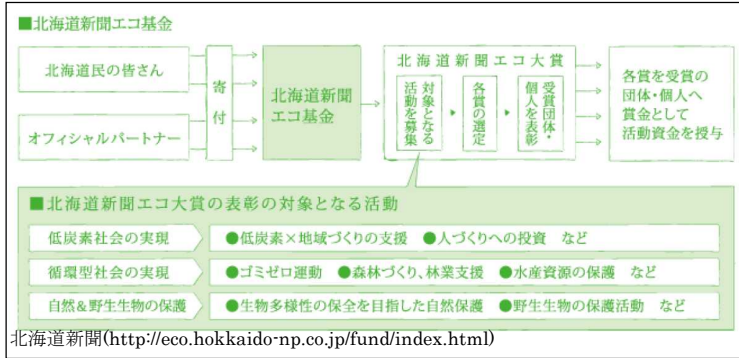


取組イメージ ④

### 福岡町地域のためのエコ基金創設（地域版のエコファンドの創設）

#### 【概要】

- 環境問題に対処するためには、地域の人々が日常生活と環境との関わりについて十分理解し、省エネ・省資源などの実践活動に取り組んでいくことが大切である。
- そのため、福岡町域においてエコ基金を創設し、基金の運用益などを利用して、地域住民の環境に関する意識の向上や、環境保全活動の推進のための活動を展開する。
- エコ基金を活用した太陽光パネルを設置し、売電の収益を活動費とすることや、市民風力発電の設置など、運用益以外の活動費捻出なども検討する。



#### 北陸初の市民風車誕生！

「輪島もんぜん市民風車」は、輪島市門前町の丘陵部に建設される2000KWの発電用風車で、約1000世帯分の電力を供給できます。2010年3月に運転開始を予定しています。この事業はNPO法人市民環境プロジェクトが中心となって設立した「一般社団法人輪島もんぜん市民風車」によって運営されます。輪島もんぜん市民風車は、同地で建設される「輪島門前コミュニティウィンドファーム」の風車10基と連携しています。

市民風車は、2001年に北海道で初めて建てられてから今まで11基が稼働しており、市民の環境への意識を高めた地域の活性化に役立ってきました。

輪島もんぜん市民風車は、多くの市民の皆さんからの市民出資で建設を進めようとしています。(国からの補助金や金融機関からの借入れも含まれます) 地球温暖化や自然エネルギーの推進に関心のある市民とともに市民出資を通して、環境問題へ取り組みを深めていきたいと思ひます。



#### 市民環境プロジェクトとは？

地球環境の問題は持たなしです。私たちは金沢市を中心に活動しているNPO法人です。特に地域のエネルギーに着目して、市民一人ひとりが関心と責任をもって、行政や企業と協働しながら、政策提言を行っていくことをめざしています。その際、一番大切なことは、行動し実践することです。私たちは、「市民によるプロジェクト」を目に見える形で実現することを目指します。

NPO 法人市民環境プロジェクト (<http://homepage3.nifty.com/shiminkankyopj/>)

#### 【参考事例・データ等】

### エコ推進を目指す地域エコファンド

- 長野県飯田市は年間の平均日照時間が 2,094 時間と、太陽のエネルギーに恵まれており、これを様々な方法で積極的に利用してきていたが、平成 16 年度に「太陽光市民共同発電事業」に着手。
- 事業の形態は、全国から出資を受けた市民ファンドと国庫補助金を財源に、「おひさま進歩エネルギー㈱」が所有する太陽光発電パネルを市内の公共施設や事業所などの屋根に設置し、同社から電気の供給を受けるとともに、余剰電力は電力会社に売電するというもの。
- 環境意識の高いファンド投資家の需要に応えるとともに、地域における自然エネルギーの利用促進に大きな役割を果たしている。平成 20 年度末における設置箇所数は 162 箇所、全発電容量 1,281Kw、年間 CO2 削減効果約 711 トンとなっている。



## 4 エコ活動を普及・定着させるための社会的支援のあり方

市民（住民）主体による地域主導型のエコ活動を、今後、福岡町地域に定着させ、また、高岡市全体への拡充を図るためには、エコ活動を普及・定着させるための社会的支援が求められる。

### ア 市民の提案・アイデアの実現

エコ活動の実効性を高めていく観点から、市民が生活上の課題や取組経験から考え出したエコについての提案・アイデアを社会的に反映させる仕組みづくりが必要である。（生活に根ざしたエコ活動の社会的普及への支援、市の環境事業やサービスに対する改善点の提起への対応など）（ワークショップの継続）

### イ 様々なまちづくり分野におけるエコの応用

手間のかかるエコ、生活に負担のかかるエコから、生活にメリットのあるエコ、楽しいエコへと転換を図るためには、さまざまなまちづくり分野との連携が必要である。例えば、エコをテーマにした講座の設置など生涯学習との連携による新たな学習機会の拡充、自転車利用やウォーキングなどエコの両立した健康づくり事業などがあげられる。また、地域が一体となった取組を進めるためには、学校や地域社会との連携や協働も必要となっており、学社連携を促進するための環境づくり等も必要である。

### ウ 地元大学と連携したエコ事業の推進や推進体制づくりの強化

地元大学（富山大学等）が有する人材、ネットワーク、ノウハウ等をエコのまちづくりに活用することで、地元のエコの専門性や実効性が高まる。市と富山大学との協定等を活かし、福岡町地域と地元大学との連携の強化や共同プロジェクトの創設等の環境づくりが必要である。

### エ 市民に分かりやすいエコモデル地区の形成

市民が実際に体験し、理解できるエコモデル地区の形成が、住民のエコ活動の促進やライフスタイルの改善に大きく貢献する。福岡町地域の一定の区域にエコの視点を総合的に取り入れた「エコモデル地区」として定め、そこで展開される街並みの整備、ライフスタイルの実践、エコイベント等の実施に対して、一定の支援を図ることなどが求められる。また、エコモデル地区のなかに、エコを体感・体験できる中核施設や設備等を整備し、福岡町地域におけるエコ活動やエコまちづくりの拠点性・機能性を確保することも必要である。

### オ 国・県等のエコに係るモデル事業等の制度導入

エコに係る国・県等のモデル事業等の制度が増加しており、こうした制度の導入や活用によりエコ活動に必要な財源の確保、エコのノウハウの確保、専門機関とのネットワークの構築等が推進される。しかし、制度に係る情報不足や推進主体の確保、申請手続きに係る事務処理等、住民側に十分な知識・

ノウハウ・体制が確保されていないケースが多い。こうした制度の適切な利用を図ることができるよう、市からの情報提供、申請手続きに係る助言・サポート、推進体制確保や提案づくりに係る大学等の専門機関等の連携確保などが必要となる。

#### カ エコまちづくりに向けた人材育成・開発

エコ活動、エコまちづくりには、エコに係る専門性やネットワーク形成、まちづくりを進めていくためのマネジメント能力等が必要とされ、今後の地域の人材育成・開発が重要な課題となる。福岡町地域においても、エコまちづくりの推進上の課題として、専門的な情報や人材の必要性があげられている。学校教育、社会教育等における既存の環境学習プログラムの拡充をはじめ、実践的なエコ活動を通じた人材育成、就業者や退職職者等の潜在化している地域人材の発掘、エコ活動を進めるための地域リーダーの養成等、エコまちづくりに向けた人材育成・開発のための環境づくり、支援メニューづくりが必要である。(地元の環境を考える「市民ボランティアやNPOなどの団体」づくり)

#### キ 市役所（職員）の積極的な取り組み

まちづくりにおけるエコの重要性やエコに対する意識を高めるためには、市役所（職員）が住民と一体となってエコ活動に取り組むことが大切である。特に地元の行政機関である福岡総合行政センター及びセンター職員が地域の模範となり、地域社会のエコ活動に積極的に関わっていくことが求められる。(環境性能の高い庁舎、リサイクル等の拡充、公共交通機関等を利用した通勤スタイルの確保等)

#### ク エコまちづくりの実現に向けた計画的・段階的な推進

福岡町地域においてエコ活動やエコまちづくりの成果をあげていくためには、持続的な取組を総合的に展開していく必要がある。こうした持続的・総合的な取組のためには、エコ活動やエコまちづくりの具体的な目標を設定・共有し、その達成に向けて計画的・段階的な取組を進めていく必要がある。

また、地域主導の観点から、市（行政）が決めた目標や活動を地域社会が担っていくのではなく、福岡町地域の住民が主体的に考え、目標を設定・共有し、地域の実情に即した計画的・段階的な取組を進める必要がある。

このため、市（行政）は、福岡町地域を対象としたエコまちづくりに係る計画策定や目標づくり、計画の推進や目標の達成に向けた具合的なロードマップづくり等、福岡町地域が主体的にエコまちづくりを展開していくための環境づくりへ支援体制の構築が必要である。(エコワークショップの継続、エコまちづくり計画策定や目標づくりに向けた策定体制・組織づくりの支援、計画策定や目標達成に向けた活動に対する財政的支援等)

#### ケ 報告書の活用

今回の調査では、福岡町地域の地域資源の発見と共有化を行い、エコ活動に関する地域課題や住民

ニーズが明らかになった。この調査結果をもとに市（行政）や住民は地域資源を活用しながら、地域課題を解決するための「行動」や「提案」を整理する。これらの「行動」や「提案」を踏まえた報告書は広く住民に周知し、自治体の政策に反映させ、盛り込まれた「行動」や「提案」に優先順位をつけ、実施のために、市民や市役所内にワーキンググループなどをつくり、具体的にエコ事業を計画的に実践していくことが重要である。（福岡らしさを念頭に中長期の取り組みにあたる手順と目標スケジュールについて別冊にまとめた。）



## 調査研究委員会等名簿



# 調査研究委員会等名簿

## 調査研究委員会

|     |        |                                      |
|-----|--------|--------------------------------------|
| 委員長 | 伊藤 裕夫  | 富山大学芸術文化学部教授                         |
| 委員  | 金岡 省吾  | 富山大学地域連携推進機構地域づくり・文化支援部門教授           |
|     | 海野 優   | 富山市エコタウン事業者協議会会長                     |
|     | 伊藤 美和子 | 高岡市食生活改善推進協議会副会長                     |
|     | 吉田 孝   | 小矢部川に学ぶ会代表                           |
|     | 中田 恵   | 福岡くらしっく街道の会幹事                        |
|     | 山田 儀作  | 福岡町地域自治会連合会会長                        |
|     | 井村 博子  | 地域女性ネット高岡福岡地区婦人会会長                   |
|     | 上田 久之  | 高岡市商工会福岡支部長                          |
|     | 山崎 博   | ㈱ウエルカム福岡代表取締役社長、福岡観光ガイドボランティアさくらの会会長 |
|     | 堂田 伸俊  | J Aいなば福岡支店長                          |
|     | 寺嶋 哲   | 高岡市生活環境部部長                           |
|     | 萩下 昌弘  | 高岡市生活環境部次長                           |
|     | 山口 新三  | 高岡市福岡総合行政センター所長                      |
|     | 藤田 萬豊  | 財団法人地方自治研究機構事務局長兼法制執務部長              |

(順不同)

## ワークショップ

プロデューサー 碓谷 勝 富山大学 地域連携機構 地域づくり・文化支援部門研究員

## 里山保全コース

|      |       |               |
|------|-------|---------------|
| 講師   | 永田 実  | 講師            |
|      | 浦山 正夫 | 講師/一般         |
|      | 窪谷 芳光 | 講師            |
| メンバー | 河原 友之 | 一般            |
|      | 吉國 妊子 | 一般            |
|      | 吉国 一雄 | 山王地区（上蓑）      |
|      | 山岸 幸夫 | 五位山（小野）       |
|      | 寺田 孝正 | 五位山（西明寺）      |
|      | 堀澤 幸夫 | 福岡地域長寿会       |
|      | 谷口 知  | 福岡地域長寿会       |
|      | 森元 徹  | 富山県西部森林組合高岡支所 |
|      | 山崎 博  | ウエルカム福岡       |
|      | 吉田 孝  | 小矢部川に学ぶ会      |

## エコな暮らし10ヶ条コース

|      |        |                  |
|------|--------|------------------|
| 講師   | 中村 早苗  | 講師               |
| メンバー | 有澤 良一  | 一般               |
|      | 畠山 旨人  | 山王地区（下老子）        |
|      | 島次 富   | 大滝地区（木舟）         |
|      | 堀田 忠夫  | 福岡地域長寿会          |
|      | 麻生 達乗  | 福岡地域長寿会          |
|      | 梁瀬 温子  | キラッと福岡ネット        |
|      | 高田 節子  | キラッと福岡ネット        |
|      | 中村 久枝  | キラッと福岡ネット        |
|      | 大野 巖   | ウエルカム福岡          |
|      | 沢田 紀美子 | さくらの会            |
|      | 杉浦 好美  | 地域女性ネット高岡福岡地区婦人会 |



## 地域資源エコを活用したまちづくりコース

|      |    |    |              |
|------|----|----|--------------|
| メンバー | 林  | 隆三 | 福岡地区（大野新）    |
|      | 山田 | 幸男 | 福岡地区（中町）     |
|      | 石沢 | 紘一 | 福岡地区（中町）     |
|      | 篠田 | 勇  | 福岡地区水田営農実践組合 |
|      | 岩井 | 友信 | 福岡地区水田営農実践組合 |
|      | 吉田 | 倫子 | ウエルカム福岡      |
|      | 佐野 | 由紀 | さくらの会        |
|      | 越後 | 秀之 | 福岡くらしっく街道の会  |
|      | 蓑  | 厚行 | 福岡くらしっく街道の会  |
|      | 滝  | 正博 | 福岡くらしっく街道の会  |
|      | 徳田 | 新一 | 商工会 福岡支部     |
|      | 白銀 | 嘉明 | 一般           |

## エコに配慮した地産地消のまちづくりコース

|      |    |     |                  |
|------|----|-----|------------------|
| 講師   | 和田 | 祐   | 講師               |
|      | 中山 | 智章  | 視察               |
|      | 伊藤 | 美和子 | 講師/一般            |
|      | 濱木 | 慶子  | 講師/一般            |
|      | 佐野 | 規子  | 講師/一般            |
| メンバー | 源  | 保夫  | 赤丸地区（向野）         |
|      | 荒田 | 健正  | 福岡地域長寿会          |
|      | 竹田 | 昌彦  | 一般               |
|      | 山田 | 愛子  | 高岡市食生活改善推進協議会    |
|      | 山崎 | 清孝  | 商工会福岡支部          |
|      | 坂本 | 重夫  | 商工会福岡支部          |
|      | 石黒 | 悦子  | さくらの会            |
|      | 竹島 | 寿美  | さくらの会            |
|      | 山田 | 真由美 | 地域女性ネット高岡福岡地区婦人会 |
|      | 上野 | 紀一  | 福岡地区水田営農実践組合     |

(順不同)

## 事務局・基礎調査機関

|     |       |                        |
|-----|-------|------------------------|
| 事務局 | 山崎 健二 | 高岡市福岡駅前まちづくり推進室室長      |
|     | 橘 美和子 | 高岡市福岡駅前まちづくり推進室主幹      |
|     | 松嶋 賢二 | 高岡市福岡駅前まちづくり推進室技師      |
|     | 石黒 義朗 | 高岡市生活環境部地域安全課環境政策室室長   |
|     | 佐野 秀直 | 高岡市生活環境部地域安全課環境政策室主幹   |
|     | 室谷 智  | 高岡市生活環境部地域安全課環境政策室主任   |
|     | 桑野 齊  | 財団法人地方自治研究機構調査研究部主任研究員 |
|     | 内山 雅雄 | 財団法人地方自治研究機構調査研究部研究員   |
|     | 家中 賢作 | 財団法人地方自治研究機構調査研究部研究員   |

## 基礎調査機関

|  |       |                            |
|--|-------|----------------------------|
|  | 柳瀬 邦治 | 株式会社日本海コンサルタント計画本部計画部グループ長 |
|  | 神納 毅  | 株式会社日本海コンサルタント計画本部計画部      |

(順不同)

地域資源を活用した地域主導型エコ環境づくり  
に関する調査研究

－平成 23 年 3 月発行－

高岡市 福岡総合行政センター 福岡駅前まちづくり推進室  
〒939-0192

富山県高岡市福岡町大滝 12  
電話 0766 (64) 1430(直通)

財団法人 地方自治研究機構  
〒102-0082

東京都千代田区一番町 25 番地 全国町村議員会館 3 階  
電話 03 (3237) 1411 (代表)

印刷 株式会社サンワ

